

IV 完全学校週5日制における体制整備推進方策についての提言

ここでは、「5日制に関する各種アンケート調査結果」及び「県内の事例研究」をもとに、5日制を円滑に推進する上で今後必要とされる体制整備について提言していくこととする。

1. 完全学校週5日制に対する保護者の意識に関すること

(1) 5日制に対する一層の理解促進

保護者自らが5日制に対応した事業に参画したり、子どもと共に活動したりすることによって、5日制の趣旨（地域での様々な体験活動や交流活動の重要性を含めて）が理解される。そのためには、保護者にとって最も身近な情報源である学校・公民館等から5日制対応プログラムの情報を提供し、各種事業への参加を呼びかけていくことが効果的である。

① 学校・公民館からの啓発

各学校ごと講演会や学級・学年懇談会等で地域活動・体験活動の意義を含め5日制の趣旨についての理解を求め、参加を推奨する。また、校内に地域活動・体験活動についての啓発及び情報に関するコーナーを設置したり、通信を発行したりして、保護者ばかりでなく地域の住民にも啓発を図っていく。また、公民館においても、公民館だよりや公民館祭り等で地域活動・体験活動への参加促進を図っていく。

② PTA活動による保護者への理解促進

PTA活動の中に子どもの地域活動・体験活動を支援するための組織を設け、PTA主催で事業を企画したり、活動の場の情報提供をしたりするなどPTA活動の一環として5日制を支援する。さらに、県や市町村ではPTA指導者研修の中に5日制推進指導者研修等を組み入れるなどして、PTAによる保護者の意識を高める活動や主催する活動に生かされるよう援助する。

③ 公民館・青少年施設等の事業への参加を通しての理解促進

保護者に地域活動・体験活動の意義を理解してもらうためには、まず保護者に体験してもらうことが重要である。そのために、親子がともに興味をもてる内容の活動機会を公民館・青少年施設等が中心となって提供し、参加を推奨する。

(2) 子育て・家庭教育の充実促進

平成13年7月に社会教育法の一部改正がなされ、「家庭教育の向上のための社会教育行政における体制の整備」の中の改正事項の一つとして「家庭の教育力の向上を図るため、家庭教育に関する講座等の実施及び事務を教育委員会の事務として明記する」が盛り込まれた。基本的な生活習慣、豊かな情操、善悪の判断等の基本的な資質や能力は、家庭教育においてこそ培われていくとの認識に立ち、保護者がその責任を自覚するという姿勢に立たなければならない。

そのために、5日制によって増えた家庭で過ごす時間が有効に使われるよう、家庭教育の重要性・方法等について多くの保護者が学べる機会や我が子の理解につながる親子で体験できる活動の場を提供する必要がある。

① 家族の一員としての家庭内での役割の分担の推奨（家事等の手伝い）

子どもが家庭の中でできる料理、洗濯、掃除などは大切な体験活動である。子どもが家族の一員としての役割を担い、家族の中での存在感が味わえるような気運を高めていく。また、家庭での教育やしつけに関して、それぞれの家庭で考えてもらえるよう「家庭教育手帳（乳幼児期対象）」や「家庭教育ノート（小・中学生対象）」の活用を推奨していく。

② 親子で参加できる活動の提供

家庭だけでは見られない子どもの良さに気づく機会として、また、親子のコミュニケーションを深める場として、休日等における公民館等の事業の中に学習成果が家族の共通の話題となるような親子の体験活動の場を充実し、提供していく。

③ 家庭教育学級等の研修の充実

保護者全員に対し、幼稚園・保育園での1日入園、就学時健康診断の際、家庭教育の重要性・方法等について学ぶ機会を設け、各市町村の家庭教育学級・講座等の開催情報を提供し、参加を推奨する。さらに、父親の参加を促すために、子育て・家庭教育を支援している家庭教育オピニオンリーダーとの連携を図り、出前講座や趣味的講座等を増やしていく。